No.39
2009. 6. 5

地球の木

地球上のすべての人たちと共に生きたい

CONTENTS

●キーワードは「人」……1
●今日の女性教育の必要性……2
●サワナケート県の村だより……2
●成長する少女たち……3
●特集　知ってほしい地球の木……4～5
●あーすフェスタかながわ2009……6
●紙芝居一緒に作りませんか！……6
●祭りはネットワーキングのチャンス！……7
●地球の木カフェ……7
●活動日誌……7
●INFORMATION……8

キーワードは「人」

理事長　丸谷士都子

5月30日に会員総会が開かれました。新しいメンバー4人を含む8人の理事が選出され、地球の木の新年度がスタートしました。

毎年5月は、多文化共生について考えるおまつり「あーすフェスタかながわ」に実行委員・企画委員として参加しています。外国籍県民が主体となって、大勢の県民、神奈川県庁やかながわ国際交流財団の職員と共に作りあげていくエネルギーあふれるまつりです。最初は小さなアイディア程度の企画が、集まってきた人たちの絶妙な連携で組み立てられ、準備され、フェスタ当日を迎えるのです。議論や作業をする中で、互いを知り、多様な文化を学ぶのも貴重です。地球の木の活動、そして支援地の村人たちの行動も同じです。集まってくるたくさんの仲間の関心と熱意が大きな潜在能力を引き出します。キーワードは「人」。今年も大勢の皆さんと一緒によりよい世界に向けて活動していきたいと気持ちを新たにしています。

地球の木は今年で18年目を迎えます。私たちの目指すところは「地球上のすべての人々が自然と共存し、お互いの人権を尊重し、それぞれが自立したより新しい生き方を創造する社会を実現する」ことです。この目標に向って、地域と地域を結ぶ草の根の国際協力と、世界の構造と私たちの暮らしとの関係について考える地球市民教育活動を続けてきました。しかしながら、貧困や環境問題はますます深刻になり、紛争は収まることなく、住み慣れた場所から移動せざるを得ない多くの人たちが苦難を強いられている、悲しい現実が目の前にあります。この地球をみんなで分かち合うために、世界の現状を知り、日本の私たちの課題ともつながっていることを認識する人がひとりでも増えることが重要です。

地球の木の中期計画を立てるため、13名からなる3ヵ年計画検討委員会を結成しました。昨年から今年にかけて、課題を整理し、これからの活動のあり方について討議をおこない、20周年をめざして今後3ヵ年の計画を策定しました。

前3ヵ年では、新プロジェクトの立ち上げや地球市民教育の連続講座、地球市民交流活動に力を注ぎましたが、会員の高齢化や不況の影響を受け、会員の減少が続いています。同時に活動を担う人も少なくなりつつあります。様々な活動が展開されるとともに、テーマが見えにくくなっているという点も課題です。

このような状況に対応するため、新3ヵ年計画の全体テーマを「分かち合うくらし」とし、設立以来追求してきた地球の木のテーマを深めます。「活性化のための事業」として、ラオスの紙芝居づくりとその上演活動や、仲間づくりのためのイベントを計画しました。地域活動からの会員増を図るため、ブランチからのリクエストに応え、誰でも気軽に参加でき、広めることができる教材やツールを活用できるようにしていきます。地球市民教育活動は支援プロジェクトとつながりながら進める一方、プロジェクトの検証をおこない、地球の木としてのプロジェクトのあり方を考えます。

どんな理想的な計画も、それを実行するには、たくさんの人のつながりとサポートが陰にあります。会員で成り立つ地球の木にとっては、「人」が財産です。今回の会報は、地球の木の原動力となっている理事会やチームの紹介を特集しました。

（写真は「あーすフェスタかながわ2009」の会場にて）

■発行 特定非営利活動法人 地球の木 理事会 ■発行責任 丸谷士都子 ■編集 広報部 ■事務局 〒231-0032 横浜市中区不老町1-3-3フェニックス関内2F
■TEL 045-228-1575 ■FAX 045-228-1578 ■E-Mail:chikyunoki@e-tree.jp ■http://e-tree.jp/

from Nepal

マンガルタール村で発行されたニュースレター「Roshi Lahar」(ロシ川の波という意味）の第一号に掲載された現地高校生の文章です。

今日の女性教育の必要性　サッジャ・ラマ(高校３年生)

社会は男女が力を合わせて成り立っています。馬車にたとえるなら、片方の車輪が男性で、もう一方が女性です。家庭においては家事、子どもの教育、健康管理など、女性の役割は重要で、その存在は家族にとっての光です。ですから女性の教育の必要性は明らかです。

しかし地方では特に、保守的な考え方が残っており、娘より息子の教育を優先する傾向があります。最近の政治状況の変化に伴い、女性が活躍できる施設や委員会が作られましたが、教育が不十分なため、参加できる女性はわずかしかいません。しかも重要なことの決定権はあくまで男性に委ねられているのです。

女性たちは「国家の開発のためには女性の力が欠かせない」と声高に活動していますが、実際には社会的、法的な権利を得られずにいます。ですから国家の指導者は、哲学的な理屈っぽいスピーチをするばかりでなく、直ちにあらゆる場面での女性の社会参加を可能にするべきです。

ネパールでは、1957年から女性も学校に行くことができるようになり、女子就学の優先制度や、非識字者をなくす試みが行われてきましたが、思うように実現してはいません。各小学校には必ず女性教師を配属することになっているのですが、それも実現していません。そして農村では特に、息子を私立の学校に行かせ、娘は公立に行かせる親がたくさんいるのです。教育が、国家の発展に大変重要だということは、誰もがわかっているのですが、実際に教育を受けられるかどうかは、階級や民族の出自によって決定されているのが現実です。最近の政治の変化により、全ての国家機関に33％女性を受け入れることになっていますが、これもむずかしい状況です。国家は女性の教育に力を入れる必要があります。そのためには女性が手を結び、力を合わせて前向きに行動していかなければなりません。でなければ「女性教育の権利」が絵に描いた餅になってしまいます。国の発展は女性の教育なくしては成し得ないのです。

翻訳：タラ・ニディ・ロハニ
監修：幸せ分かち合いチーム　岸　夏代

左から2番目がサッジャ・ラマさん

from Laos

サワナケート県の村だより　はじめまして…

地球の木会員の皆様、はじめまして。日本国際ボランティアセンター（JVC）ラオス事務所の平野と申します。ラオス事業へのご支援ありがとうございます。前号にてサワナケート県における森林保全と持続的農業プロジェクトの概要を説明させていただいていますので、私は村人に焦点を当てて活動の様子をお伝えしたいと思います。

持続発展的開発のためには、外部からの技術や資材よりも、もともと村にある技術や人材を活かすことが重要です。我々も、これまでまだ3ヶ月強の活動ですが、様々な村人に出会ってきました。

【途方もない働き者】

K村のPさんは人力で堤防を築き、養魚用のため池を作ったのですが、専門の道具もないため、大きな鍋のようなもので3年間かけて土を盛り上げたそうです。「他にも何人か始めたけれど、みな途中で諦めた」とのことですが、うなづける話です。JVCに養魚や野菜栽培の研修など支援して欲しい、と言うPさんは65歳。しかし彼の口をつく言葉は未来のことばかりで、息子のような年の私が「自分も頑張らなければ」という気持ちになるのでした。

【自分たちにだってできる】

K村では乱獲によって川の魚の量が減っており、保護区設置の支援をJVCに要請しました。村人の自主的活動をお手伝いする、というのはJVCにとっても最も理念に叶う活動です。そこで近辺で魚の保護区を設置して成功している村を調査し、K村の村人とともに訪れました。実はK村は以前保護区設置失敗の経験があるのですが、「同じ県の村人がやっているのだから、自分たちだって」とやる気満々です。また、訪問者を決める際、「女性は無知だから男性だけで」という声が（男女両方から）上がる中、「女性も男性も同権なのだから、行くべきだわ」とハッキリ言った若い女性がいました。学校の先生であるという彼女は実際訪問に参加しました。このような女性がいることは心強い限りです。

少しでも村の様子が伝わったでしょうか。今後も現地の空気が伝わるような情報をお届けしたいと思います。

（JVCラオス現地代表　平野　将人）

新支援地サワナケートで現地の村人と…

from Cambodia

成長する少女たち

地球の木が「売れるモノ作り」を支援しているタケオの職業訓練センター。その運営を支援しているのは日本のNGO　Love&Peaceである。2月末に現地を訪問した代表の藤澤房俊さんにお話をお聞きしました。

プノンペンのゴミ山で男の子と
話しをする藤澤房俊さん
ゴミ山はラブ＆ピースの原点

Love&Peaceは1998年から、首都プノンペンのスラムにあるゴミ山の子どもたちへの支援をはじめた。その後、ゴミ山住民の出身地調査をおこなった結果、最貧地域の一つであるタケオ出身者が圧倒的に多いことが判明した。「出口」の見えない極めて困難な農村開発支援を決断したのは、ゴミ山の子ども支援は基本的には対処療法にすぎず、貧困の根源に立ち入り、その連鎖を断ち切るためであった。貧困故に学校をドロップアウトし、セックスワーカーとして売られる危険性のある女子の手に職をつけ、経済的自立を促し、生まれ育った土地で暮らしていけるようにと、2005年にタケオに機織りを主とする職業訓練センターを建設し、現在まで運営を支援している。

今回は、センターで作製したシルクのスカーフや小物の販売状況と「タケオファンド」のモニターをおこなってきた。センター開設4年目に、子どもたちの経済的自立のために創設した「タケオファンド」は、製品の売上金の一部を積み立て、将来「マイクロ・クレジット」として活用する予定である。加えて、売上金の残りの一部は製品を作製した子どもに渡し、生産意欲を高めると同時に、子どもたちの家計の助けとする。子どもの家族調査によれば、子どもたちの年齢は14歳～18歳。貧しい家庭の子どもたちがほとんどで、両親のいない子や親が病気の子もいる。兄弟姉妹は多い、一番多い子で12人、半数以上が5人以上と皆大家族だ。一人の女子は、6カ月間に40ドル近くの収益をあげた。その子どもの説明によれば、ピアスを一つ買って、残りのお金は親代わりの祖父母に渡したとのこと。

もう一つの特記すべきことは、両親を亡くしセンターで織物を習ったモンという22歳の女性が、いまは責任者として織物だけではなく、子どもたちの生活も指導し、センターの実質的な指導者となったことである。彼女が両親を亡くし、三人の弟を育てるためにセンターで織物を学び始めた時の暗く、おびえたような顔と、センターの子どもたちを指導する今の自信あふれる顔を写真で比較すると、一人の女子が確かに成長していることを実感させられる。彼女の成長を通して、Love&Peaceが目的とした子どもたちの自立と地域のリーダー育成という目的に、一歩近づいたという感触を得ることができた。20人近い子どもたちに、「自分たちの足で歩けるようになりましたか、まだ支援が必要ですか」とあえて質問した。「もう少し。まだ織物を習いたい子どもが沢山います」という返事が戻ってきた。彼女たちの誇りと生きる力を育むためにも、永遠に支援を続けることはできない。いずれ撤退しなければならない。撤退の時は少し近づいたと思っている。その時は、これまでタケオを訪れた日本の「お兄さん、お姉さん」（学生たち）と一緒に、子どもたちが誇りと思い、一度は訪ねたいと願っている「アンコールワットに全員を招待します」と、約束してきた。二年以内には実現したいと思っている。撤退は勇気のいる決断であるが、その後は「支援」としてではなく、あらたな「協力関係」を模索している。

すっかり成長したモンちゃん

特集
知ってほしい！地球の木

新年度が始まりました。地球の木も新しい芽を出しながら、いろいろな活動が続けられ、その幹を少しずつ太くしています。「地球の木の活動って？」「地球の木って何をしているの？」……そんな新会員の質問に答えるべく、また古くからの会員の方々にも再確認していただきたく、「地球の木まるごと」を紹介いたします。

地球の木サロン

地球の木サロンは2006年にスタートし、着実にその歩みを進めています。関内の事務所を知ってほしい、会員同士が繋がり合いたい、また事務所近隣の人たちにも「地球の木」を知ってほしいという願いから生まれました。開講しているのは★ハングルに親しむ★Tea ＆ Talk★エッセイ修行★パッチ・フラワー・レメディ★実践英会話★ニット・チャット★アロマテラピー★すぐに役立つ健康ミニ講座★自力整体の9講座です。事務所に集い（一部の講座は事務所以外）学びながら親睦を深め、ここから地球の木を知り新しい会員になる人もいます。ますます大きな輪に広げたい活動です。興味のある講座をちょっとのぞいてみてください。参観大歓迎！

理事会

丸谷理事長はじめ8名の理事たちが、1ヵ月に一度、また必要に応じて時には臨時に理事会を開いています。総会で決定された地球の木の活動計画や予算にのっとりながら、個々の案件を検討し、詳細を決めていきます。他の団体との連携や内外の活動、いかにして仲間を増やすか、また収益を増やすかなど、様々なことが毎回話し合われます。狭い事務所の温度が理事たちの真剣な討議でグーンと高くなる一日です。　理事会の承認を得ながら実際に動く各々のチームや、数々のイベント。それをまた、けん引していってくれるのも私たちの頼もしい理事たちです。

地球市民教育って？

“地球上のすべての人々と共に生きていく”ためには、途上国支援だけではなく、私たち自身の暮らしをふりかえり、変えていくこと。そして支援がなぜ必要なのか、その背景にある格差や対立、環境破壊などの構造的な問題を知ることが必要です。

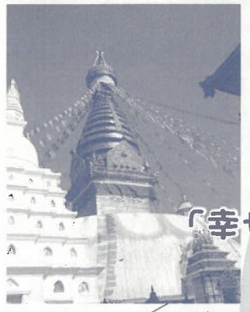
そのために、私たちが行っていることは、出前講座として学校や市民団体などからの依頼を受け、「マジカルバナナ」「ネパール・タルー族の家族ゲーム」「貿易ゲーム」「もし世界が100人の村だったら」などの教材を使ったワークショップをし、未来を託す子どもたちに、直接話しかけます。　また、グローバルな課題を学ぶ講座を企画・実施します。一昨年、昨年と連続講座として、温暖化問題に始まってエネルギー問題を取り上げ、省エネ推進にとどまらず新しい社会のあり方として問題提起をしてきました。

さらにフィリピン・ネグロス島の砂糖農園労働者をテーマにした教材「マジカルシュガー」、ラオスの村人のくらしや、ネパールでの村人主体の農村開発など支援地を題材に、新しいワークショップも生まれています。他にも昨年連続講座で製作した2枚のソーラーパネルをネパールの支援地へ設置するチームやラオスの紙芝居作りを進めるチームなども動き始めています。

試行錯誤の中、市民ひとり一人の微力を持ち寄って、誰かの心に小さな種火をともす活動です。もし関心をもたれたら、是非来てみてください。

カンボジア クメールシルクチーム

カンボジアが好きな人、手織りの布の好きな人、手作りが好きな人……そんな仲間が「カンボジア・タケオにある職業訓練センターの少女たちを応援したい」と集まっているのが「クメールシルクチーム」です。まだ新しいチームですが、カンボジアの人たちの誇りでもあるクメールシルクを通して、厳しい生活を余儀なくされている状況でけなげにがんばる少女たちを応援しています。「手織り」とはとても根気のいる時間のかかる作業です。細い1本1本の糸を織り上げ、美しい布を作り上げていく……支援も同じように根気のいる仕事で、何度も現地を訪問し、少しずつ現地の少女たちと心を通わせていくことが必要です。シルク小物やスカーフと共に、手作りのスカーフを誇らしげに見せる少女たちの笑顔も伝えます。関心のある方はどうぞ「クメールシルクチーム」へご参加ください。



ネパール「幸せ分かち合い」チーム

地球の木がネパールで進めている「幸せ分かち合いムーブメント」は、村の人たちと支援する人が、幸せを分かち合いながらよい村にしていくという発想です。パートナーNGOのカマル・フヤルさんは、村人たちのいいところを引き出し、決定は必ず村の人たちがするという点を大切にしています。話し合いには長い時間がかかります。しかし、形は「村人参加」のようでも、結局は支援する側の都合で決められるプロジェクトとは違い、村の若者たちを惹きつけています。私たちにとっても、自分たちの暮らし方や地域のあり方を考える貴重なきっかけとなっています。

チームは、マンガルタール村の人たちと地球の木会員を結ぶ大切な役割を担います。ミーティングは月１回開いています。今年度は「幸せ分かち合いワークショップ」を各地で行いたいと思っています。スタディツアーの企画やあーすプラザの「ネパールデイ」への参加、そして11月にはカマルさんをお呼びして参加型の手法を学ぶワークショップを企画します。ネパールに関心のある方、「参加型ワークショップ」に関心のある方、一緒にやってみませんか？

ラオスチーム

GDPが低くても、自然が豊かでその自然資源により飢えることのないラオス。GDPは高くても、自殺者が年間3万人を超える日本。どちらが豊かといえるでしょう？15年間支援を続けてきたラオスからは、「ほんとうの豊かさとは何か」ということを教えられました。カムアン県に続いて2009年度から支援をすることになったサワナケート県では、開発がさらに進んでおり、米不足も深刻といいます。自然と共生する持続可能な暮らしを日本に伝えることで、私たちの今の暮らしを見つめなおすことができる、また、ラオスの村人に日本の環境破壊や公害の経験を伝えることが何かの役にたつかもしれない、と私たちは考えます。ラオスチームはそんなことを思いつつ、出前講座やラオスを知るイベントなどを今後も企画します。また、ラオスの村人と草の根の交流もします！関心をお持ちの方、ぜひ一緒に活動しましょう。お待ちしています！

ສັນຕິພາບ 平和 शान्ति PEACE 평화 PAGHIDAET សន្តិភាព

事務局

あらゆる内外の連絡、事務、雑務をこなす事務局は、現在、筒井事務局長ほか、頼りになる２名が受け持っています。地球の木のどの活動を見ても、裏方で支えてくれる事務局なしに、それは成り立ちません。忙しく走り回っている姿を見ると、きっと誰でも「お手伝いします」と声を掛けたくなるような事務局です。

会報作成チーム

1年に4回発行する会報は、会員の皆さまに、地球の木の活動を知っていただくための唯一の大切な手段です。限られた紙面で、支援プロジェクトのことや様々な活動の様子をより分かり易くお伝えするために「ああしよう、こうしよう」と５名のチーム員が頭をひねっています。記事にしたいことが多すぎて困ることもありますが、執筆者の方々にご協力いただきながら毎号悩みつつも楽しく編集を続けています。

大きくなぁ～れ地球の木

みんなで育てる多文化共生
あーすフェスタかながわ2009

横浜市栄区の本郷台駅近くにある「あーすぷらざ」で今年も5月16、17日にフェスタが、にぎやかに開催された。

この催しは、1999年に神奈川県と県内の民族団体が行った「日中韓市民交流フェスタ」が前身である。外国籍県民が主体に企画・運営を担うイベントとして、互いの文化や価値観を理解・尊重し「共に生きる豊かな多文化共生社会」をめざし、毎年開かれるようになり、今年で10回目を迎えた。地球の木も実行委員として第１回から関わり、イベントや企画に参加している。

多様な国籍、文化を持つ総勢200名を超える人たちが企画委員となり半年間にわたって話し合いを重ね、準備をすすめてきたという今回の10周年記念のフェスタは、実にたくさんのプログラムが用意されていた。

いろいろな国の楽器演奏や踊りが披露されたステージプログラム。これからの多文化共生のあり方を考えるいくつかのフォーラムプログラム。実際に子ども達が作ったり、遊んだりする多文化体験プログラム。交流・展示プログラムでは、地球の木も企画に加わった「かながわと世界のともだち展」が多様な文化を持つ子ども達の絵を数多く展示し、「写真展『在日』ストーリー」は戦前・戦中から日本に暮らす在日韓国・朝鮮人、中国人たちの当時の様々な姿を伝えていた。さらに「あーすフェスタ10周年記念写真展」なども。それぞれには趣向を凝らしたゲームやクイズなど楽しい企画もいっぱいあった。その他にもいくつもの催しがあり、2日間で終わらせてしまうのは、惜しいと思うものばかりだった。

いつもグッズを販売してくれる「なんぶ」の仲間たち

さらに、フェスタに欠かせないのはワールドバザールと世界屋台村。バザールは40近い出店があり、それぞれの国の民芸品や小物が所狭しと並べられ、来訪者は売る人とおしゃべりしながらショッピングを楽しんでいた。もちろん地球の木のグッズ販売もその中にしっかりと溶け込んでいた。世界屋台村は30ほどのお店のテントが連なり、どこも盛況で美味しい匂いをさせている。あれもこれも食べてみたいけれど、人の胃には限度があるのが残念。地球の木は今年も何人もの会員のお手伝いを戴いて「おいしいチヂミ」で大奮闘。2日目には強風でテントが倒れそうになり、場所替えを余儀なくされるというハプニングもあったが、無事完売することができた。

実にたくさんの人たちが、のびのびといろいろなことに挑戦し自分を表現している姿がとても印象的だった。そして自由に交流する風景に、このフェスタ開催を続けてきた今までの多くの人たちの努力とその成果を確かに見ることができた。（広報チーム　沼田由美子）

紙芝居一緒に作りませんか！

地球の木は、JVCのラオスカムアン県の森林保全・自然農業プロジェクトの支援を約15年続けてきました。最貧国からの脱出を目指すラオスでは今、水力発電のためのダム建設や、外国企業による商業植林、鉱物資源の採取などの開発がどんどん進められています。支援対象村のひとつ、ナカイヌア村は、国家プロジェクト・ナムトゥン２ダムの予定地となっていました。2005年と2007年に訪れたときには、村人は様々な不安を訴えていましたが、2008年4月についに村は強制移転。プーカムさんが小さいころよくその下で遊んだ大きな樹も、ブンペンさんの両親の家もすべて今は水の底に沈みました。ラオスには「ピー」と呼ばれる森の精霊がいると言われています。ナカイヌア村のことを思うとき、ふと、「村の森に住んでいたピーはどうしただろう？」と考えました。悠久の時を村人とともに過ごしてきたピーの目を通して、ナカイヌア村のことを日本の人たちに伝えたらどうだろう？自然とともにあるラオスの豊かな暮らしや、移転した村のことを、紙芝居にしてみたら！？紙芝居ならいつでもどこでもだれでも演じ手になれる、そう思ったのです。といっても、一からの取り組みです。この紙芝居作成計画に関心を持った方、ぜひ一緒に作り上げませんか？「ちょっと興味あり！」の方大募集中です！事務局へご連絡ください。（ラオスチーム　武安　ますみ）

緑区市民活動支援センターまつり

祭りはネットワーキングのチャンス！ 3/14,15

バケツの水をひっくり返したような雨の中、「本当にお祭りやるのかしら？」と不安な気持ちを抑えながら、JR中山駅近くの緑区市民活動支援センターに向かう。ドアを開けるや、そこはすっかりお祭りモード。四方の壁には、区内で活動するさまざななグループを紹介するパネルが、所狭しと貼り巡され、会場は早や、熱気に包まれている。

パソコン・コーナー、茶道のお点前、墨を使わずに水を使って書くお習字体験、型染めのＴシャツ作り、etc.。会場に人と声が行き交う。隣の会議室からは大正琴の音が響き、綿飴の懐かしい香りが漂う。

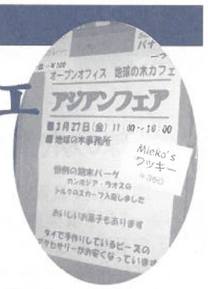
雨が小降りになってくると外では、リタイヤ組の男性たちがトン汁や焼きそばに腕をふるう。地球の木は、ネパール支援から生まれた紙芝居「デブラニ物語」を上演し、「学ぶってなんだろう？」というテーマのワークショップを行った。また、支援グッズの販売も好評であった。地域で活動している地球の木の仲間たちがいて、ネットワークがどんどん広がる面白さを感じる祭りであった。

（ネパールチーム　乳井　京子）

地球の木バッジをつけて「いざ出陣！」

オープンオフィス

地球の木カフェ



3月27日関内の事務所で、「地球の木カフェ」がおこなわれました。今回は、3月末ということもあり、「期末セール」として支援地グッズなどをお買い得の価格で販売し、8万円近い売り上げがありました。地球の木カフェは年に4回事務所を開放し、支援地のグッズやボランティアの方々が作ってくださったお菓子などを販売して収益を得る機会のほか、より多くの人たちが地球の木の事務所を訪れ、知ってもらう機会となればと開催しています。毎回、プロジェクト調査報告会や手織りシルク展示販売会、写真展、「トンボ玉ネックレス作り」など、多彩な企画で開催しています。

地球の木会員の方もたくさん来られます。「一度事務所に来てみたかった」「近くに寄ったので会費を払いに来た」「会報誌で読んだシルクのグッズを見てみたい」など理由は様々。普段、会う機会の少ない会員の方とお会いできるのは本当に嬉しいことです。前回の会報誌で、カンボジアの職業訓練センターに持参するハサミや裁縫箱を募集したのを見て、ハサミを届けてくださった会員の方が二人来てくださいました。支援地－地球の木－会員をつなぐ場でもある地球の木カフェ、皆さんもぜひ、一度お越しください。

（事務局長　筒井　由紀子）

あつまれ太陽の仲間

ソーラパネルチームのメンバー募集

ネパールの現地NGO「SOARS」や「協同組合」の人たちは、自分たちでパネルもつくり、ソーラー発電を事業として実施したいという希望をもっている。その彼らの事業の立ち上げを後押しする支援を行なうと共に、私たちの暮らしの中のエネルギーを考える仲間を募集！

興味のある人は事務局まで連絡して下さい。（米林　大作）

活動日誌（3月～5月抜粋）

3月	4日	3ヵ年計画検討委員会全体会
	5日	理事推薦委員会
	8日	川崎市国際交流協会で活動紹介
	10日	第9回理事会
	11日	地球の木サロン「実践英会話」「エッセイ修行」
	12日	ESD-J NGO連携連絡会合に参加
	14・15日	緑区市民活動支援センター祭り、ワークショップ参加
	18日	第10回ブランチ連絡会
	21日	地球の木サロン「ハングルに親しむ」
	23日	NGOかながわ国際協力会議
	24日	理事推薦委員会
	25日	地球の木サロン「実践英会話」
	26日	第10回理事会
	27日	地球の木カフェ
	28・29日	DEAR教材体験フェスタに講師として参加
4月	1日	地球の木サロン「実践英会話」
	11日	地球の木サロン「エッセイ修行」
	14日	第11回理事会
	15日	地球の木サロン「実践英会話」
	17日	平楽中学校教員研修
	18日	地球の木サロン「ハングルに親しむ」
	20日	第11回ブランチ連絡会
	20・21日	監査
	22日	地球の木サロン「Tea&Talk」
	25日	環境と平和を考えるDAYに参加（西湘）
	30日	第12回理事会
5月	9日	出前講座（平楽中学校）
	12日	第12回理事会
	13日	地球の木サロン「エッセイ修行」「実践英会話」
	16・17日	あーすフェスタ
	18日	第12回ブランチ連絡会
	26日	WE講座「幸せ分かち合い」ワークショップ（WE21ジャパンとつか）
	30日	第10回総会（オルタリアン）
	31日	茅ヶ崎カトリック教会バザー出店（湘南）

地球の木講座 実行委員募集！

地球市民教育チームは、今年度も地球の木講座を10月～11月頃実施します。企画から一緒に係ってくださる方を募集します。世界が今かかえている問題を共に学びながら楽しい講座を作りませんか。

お問合せは事務局まで TEL 045-228-1575
e-mail chikyunoki@e-tree.jp

開国博Y150ヒルサイド 世界とつながる！ 国際協力ひろば＆ステージ

横浜などを拠点とする国際協力NGOが、シンポジウムやワークショップ、展示などで「国際協力」「国際交流」「環境」について紹介します。地球の木は14日～20日に出展。活動紹介、ミニワークショップ、グッズ販売を行います。

ヒルサイドとは、横浜市の北西部、緑区と旭区にまたがる、ズーラシアの隣接地域。この里山に囲まれた場所で、市民の企画による様々なイベントが繰り広げられます。

日　時：7月4日（土）～20日（月）9:30～17:30
　　地球の木は、7月14日（火）～20日（月）
運　営：横浜NGO連絡会
会　場：ヒルサイドY150 竹の海原 つながりの森
　　（ズーラシアの隣接地）
交　通：相鉄線「鶴ヶ峰駅」「三ツ境駅」JR・市営地下鉄「中山駅」から「ズーラシア行」バスで約15分

港南台国際協力まつり

駅前の港南台テント村に横浜市内、港南台地区を拠点に活動するNGOが集まります！民族舞踊、コーラス、ビアガーデンもあります！NGOブースでは、国際協力団体の活動紹介、世界の物産と料理の販売があります。地球の木もチャバティとチャイを販売します。

日　時：7月25日（土）～26日（日）15：00～20：00
主　催：（特活）横浜NGO連絡会、横浜港南台商店会
会　場：港南台テント村会場
　　JR根岸線港南台駅下車徒歩1分

書き損じハガキ 未使用切手 引き続きよろしく！

前号で募集した、書き損じはがき、未使用切手は、たくさんの方々よりお寄せいただきました。ありがとうございます。引き続き受け付けておりますので事務局までお送りください。

オープンオフィス 地球の木カフェ in Summer

地球の木カフェは、年に4回の会員の交流の場です。
日　時：7月22日（水）11：00～18：00
場　所：地球の木事務所

湘南ブランチ みんなおいでよ、マジカルバナナだよ

マジカルバナナの夏休み企画です。
バナナを育てている人たちのくらしを知ろう！

日　時：8月6日（木）10：00～12：00
場　所：香川公民館講義室
・神奈中バス：茅ヶ崎駅(北口)から「鶴が台団地行き」(茅15系統)で終点(鶴が台団地)下車、徒歩5分
・JR相模線：香川駅下車徒歩20分
参加対象：小学4年生～中学生
参 加 費：100円

香川公民館では、夏休み自由広場「サークル体験」を行います。（7月23日（木）～8月28日（金））
お問い合わせ：香川公民館　TEL0467-54-1681

第9回つるみ国際交流まつり

日　時：9月6日（日）13：00～16：40
場　所：鶴見公会堂6階（JR京浜東北線鶴見駅西口スーパー西友内6階）

鶴見区内に在住の在日の（コリア・ペルー・フィリピン・インドネシアetc)の人たちの踊りやファッションショー。地球の木は、グッズ販売、ケーキ、クッキー、コーヒー販売等で参加します。

横浜国際フェスタ

日　時：9月5日(土)～6日(日) 10：30～17：00
会　場：パシフィコ横浜展示ホール

今年は、「横浜開港150周年イベント」として開催され、「多文化共生」と「脱地球温暖化」の二つをテーマに展開されます。

地球の木は活動紹介と支援地のグッズの販売をいたします。「ミニだがしや学校」やリサイクルショップもあります。

当日のボランティアを募集しています。事務局までご連絡ください。

お菓子作りボランティア大募集

地球の木では、イベントなどで手作りのお菓子を販売しています。あなたも腕をふるってみませんか？
詳細は、事務局までお問合せください。

★ボランティア募集！
発送作業、イベント手伝いなど

PRINTED WITH SOY INK™
環境に配慮した「大豆インキ」を使用しています